

【成果概要】0-2 農林水産分野における気候変動影響に関する調査

調査結果の概要

■ 平成30年度の調査を通じて明らかとなった知見等

【アンケート調査結果】

- 九州・沖縄地方を除く39都道府県の普及指導機関及び試験研究機関へ、気候変動が果樹に及ぼす現在・将来の影響等のアンケート調査を実施し、リスクやチャンス等に関する取り組み状況や課題を把握した(右表に結果の一部を抜粋)。

リンゴへの現在の影響と対策例(一部抜粋)

品目	影響	対策例
リンゴ	日焼け果	・遮光資材の利用
	着色不良	・着色系統の導入、着色促進剤の使用、反射シートの敷設、着果数制限

【ヒアリング調査結果】

- アンケート調査の回答を基に、特徴的な適応の取り組み事例をもつ地方公共団体等に対してヒアリング調査を実施し、果樹における様々な適応に関する取り組みや機会の可能性について把握した。
- 種苗・生産・農薬等12の民間事業者において生産物や製品等の普及状況、手段、今後の見通しなど、気候変動が果樹に及ぼすビジネス上の取り組み状況や課題を把握した。
- ヒアリング調査結果を以下の7つの軸で整理した。
 1. 温暖化による現在の影響、2. 現在取り組んでいる対策、3. 温暖化による機会の活用、4. 新品種転換へのポイント、5. リスク管理について、6. データの運用や活用について、7. 国に期待すること

ヒアリング調査結果(一部抜粋)

1. 温暖化による現在の影響

- ・ナシの生産現場では、30年で気温が約1.5℃上昇し、開花は約10日早くなった。凍霜害や発芽不良も発生している。(県農業試験場)

2. 現在取り組んでいる対策

- ・将来を見越し、北海道に圃場を準備している。試験研究を進めた結果、技術的には栽培可能ということが分かった。今後は特に獣害対策を進める必要がある。(種苗会社)

■ 平成31年度の調査計画

- より対象を広げるためにさらなる具体的事例の調査を行い、様々な観点(品目・品種・技術など)から課題の把握、可能性の検討を行う。